

川 醉楊妃 等持寺 已上菊名
〔八雲御抄^三上〕菊 白^一やへ^二むら^三そか^四ひともと

凡菊は万葉に不詠歟、寛平菊合以後、殊名物とはなれり、寛平菊合右歌に、すへらぎの万代までにまさりぐさだまひしたねをうゑし菊也、まさりぐさといふ、似星とよむは黄菊なり、いはねのまき^一俊^二頼^三之^四基^五、凡無何之^六本^七衍^八、一^九任^{一〇}心^{一一}名^{一二}所^{一三}にはよむべからず、菊名所^{一四}みなせ^{一五}おほさはの池^{一六}むらさきの^{一七}大^{一八}の^{一九}となせ^{二〇}たみの^{二一}しま^{二二}さほ河^{二三}ふけ井^{二四}ふきあげ^{二五}あふさかの關^{二六}

伊勢のあじろの濱 已上菊合名所被定所々也、抑そが菊は、一説承和菊、黄菊也、俊成はそかひなど云やう也、更非承和菊云々、兩説也、末^一今^二據^三一本^四改^五未^六生^七難^八定^九之^{一〇}仙^{一一}菊^{一二}なれば^{一三}酌^{一四}下^{一五}流^{一六}ちとせをふる物也、うちはらふにもちよはへぬべしとよめるも、觸身は得上^{一七}壽^{一八}心^{一九}なり、ちる事なし、旁祝物なり、業平は花こそちらめといへり、花こそかれめといへる心也、經霜うつろひしほめる物也、

〔重修本草綱目啓蒙^十臨^{十一}草〕菊

- クサノアルジ
- チヨミグサ
- ヨハヒグサ
- アキナグサ
- ノコリグサ
- チギリグサ
- モ
- ヨグサ
- タテリグサ
- タキモノグサ
- ラキナグサ
- チヨグサ
- マサリグサ
- コガ子グサ
- ホシミグサ
- カタミグサ
- ナガヅキグサ
- アキノハナ
- アキクサノハナ
- アツカイグ
- サ
- イナテグサ
- ヤマシグサ
- カワラヲハギ
- 利名
- 今通名
- 甘菊一名金英
- 本草
- 家菊^{劉蒙}重英^{種杏}涼蒿^{菜救急}石決^{譜芳}冷香^{朱羸}傅公^{同上}九華^{環邪代}陰
- 成生^{宛委}長生^{草物理}笑靨^{金錄耕}禽華^{便覽}延年^{貞芳}花一名隱逸^{花撫州}
- 拒霜^{通雅木芙蓉}霜傑^{尺牘}東籬^{客花鳥}佳友^{異名}壽客^{黃花}帝女花^{同上}延壽客^{典籍}
- 金翹^{同上}黃鈿^{韻蘇氏}黃華^{先生緝事}金剛不壞主^{配妃}女郎花^{靈鬼志}

〔東雅^{十五}草〕菊キク 倭名鈔に本草を引て、菊はカハラヨモギ、一にカハラオハギ、俗には本音の如